資料１

令和元年度　神埼市立西郷小学校　学校評価計画

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
教育目標 『一人一人が意識して学びの道にいそしむ 西郷っ子の育成』 ≪校訓≫　～学び　愛し　翔る　西郷小～	【学力をつける】 ①学ぶ楽しさを育て、日々の授業を充実させ、確かな学力をつける。 ②読解力や思考力を育てるため、読書や目的ある言語活動に親しませる。 【豊かな心を育む】 ①自尊感情を育て、いじめを生まない思いやりの心を育てる。 ②挨拶励行、無言掃除、正しい言葉づかいを実践させる。 【保護者・地域とのスクラム】 ①保護者に情報を公開し学校教育への関心を高め、協力をいただく。 ②地域の力を活用して学校運営を進める。

3　目標・評価

【学力をつける】
①学ぶ楽しさを育て、日々の授業を充実させ、確かな学力をつける。
②読解力や思考力を育てるため、読書や目的ある言語活動に親しませる。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）	担当者
学校運営	○教職員の資質向上	・校内研究の充実 ・職員研修の充実 ・参画意識の育成	・県教育センター、研究発表会、大学での研修会等に年間２日以上参加する。 ・講師を招聘しての職員研修を年間５回以上計画的に開催する。 ・３部会、学級経営等にＰＤＣＡサイクルを取り入れ、重点目標概ね達成以上を目指す。	・研修会参加を奨励しバックアップ体制をとる。 ・講師を招いての職員研修を計画的に行う。 ・指導部会を毎月１回定期開催する。 ・「学び部」「心育み部」「たくまし部」で各部の課題解決に向けた取り組みをチームで連携して行う。	教頭教務	
教育活動	○校内研究	・算数科研究 ・「数学的な見方・考え方」の育成	・校内研究の充実を図り、担任は全員授業を行う。 ・「数学的な見方・考え方」を働かせ、交流により学び高め合う算数科授業（実践）研究を深めていく。 ・講師を招聘した授業研究会を行う。	・「問題提示の工夫」「自力解決の場の設定」「対話的交流の場の設定」「観点を設けた振り返りの実施」の４つを柱として授業実践を行う。 ・「二人でタイム」や「みんなでタイム」において「話す視点」「聞く視点」を定め、交流の充実を図る。 ・授業研究会や講師招聘の校内研究会を行う。（年間10回以上）	学び部	
教育活動	◎学力向上	・確かな学力育成の基礎づくり ・基礎学力の向上 ・学ぶ意欲の向上 ・スキルタイムの実施 ・家庭学習の充実 ・読書の推進	・学力向上について、全職員で方向性を模索し、地域や家庭との連携を強化する。 ・「学習のきまり」の定着を図る。到達数値目標８０％以上（着席、挨拶、学習課題、用具、座り方、聞き方、姿勢）を目指す。 ・スキルタイムを推進する。（音読、フラッシュ、計算、漢字、言語） ・学力標準調査や全国、県の学力・学習状況調査の分析をして指導方法改善に生かす。 ・家庭学習の時間：10分×（学年＋1）達成８０％以上を目指す。 ・読書の量と質が向上するようにする。（一人平均120冊以上、おすすめの本３０選のうち２０冊以上読む児童９０％以上）	・「神埼市の学習のきまり」について共通理解し、全職員で授業の中で実践する。 ・がんばり週間を設定する。（前面掲示） また、毎朝、全校一斉に立腰を行う。 ・学年毎に目標や内容を設定したスキルタイムを火・木の朝、水曜１時間（１時間を15分×2）に実施し学力向上に生かす。 ・思考力、表現力をみる問題を実施し、長文の読み方を指導する。 ・家庭学習の手引きを活用し家庭との連携を図る。 ・早朝開館、おすすめ図書の案内等、図書館利用の推進を図る。音読カードに読書の欄を設け、家庭読書の意識付けを図る。	学び部	
教育活動	○学習環境の改善充実	・立腰の徹底 ・学習習慣の育成 ・校内ルールやマナーの徹底	・朝の始まりの時間に立腰をきちんとできる。（達成率９０％） ・話す人の方を見て話を聞く。（達成率９０％） ・発表の仕方「はい」の返事、「です、ます」の言い方。（達成率９０％） ・靴箱・トイレのスリッパの整理整頓がきちんとできる。（達成率９０％） ・宿題をきちんとする。（達成率９５％）	・朝の立腰を徹底させるために音楽に合わせて、全校で一斉に取り組む。 ・基本的な学習習慣の指導を個に応じてきめ細かに行う。 ・月の生活のめあてを各クラスで毎週点検し、意識化を図る。 ・朝の会や学級指導で西郷小の「３つの誓い」や神埼プラン「学習のきまり」の指導の徹底を行う。 ・学級便りなどを通して家庭との連携を図る。 ・宿題の内容を国・算・音読とし、繰り返して出す。週末は、読書や日記、自学などを加える。	学び部	

【豊かな心を育む】
①自尊感情を育て、いじめを生まない思いやりの心を育てる。
②挨拶励行、無言掃除、正しい言葉づかいを実践させる。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）	担当者
教育活動	●心の教育	・あいさつ、正しい言葉づかい、無言掃除、廊下歩行の徹底 ・道徳や学級活動の充実 ・人権集会、平和集会の充実 ・ボランティア活動の推進	・元気なあいさつや「～さん」での呼名ができる。（達成率９０％） ・「児童生徒は、あいさつ、正しい言葉づかい、無言掃除がきちんとできている」と回答する保護者を７０％以上、教職員・児童生徒を８０%以上にする。 ・年１回全学級で道徳の授業を保護者、地域等に公開する。 ・道徳の授業の改善と子どものよさを認める評価のあり方を研究する。 ・道徳教育年間計画の別葉を活用する。 ・人権集会や平和集会を充実させる。 ・ボランティア活動の推進を図り、その体験を補充・進化・統合する道徳の授業を実施する。	・「あいさつ、正しい言葉づかい、無言掃除、廊下歩行」についての指導を、年度初めに全校集会、学級指導を通し徹底する。 ・年間通して毎月の生活の話の際に「あいさつ、正しい言葉づかい、無言掃除、廊下歩行」についてふれ、意識の継続を促す。 ・ふれあい道徳を６月または１０月の参観に設定し、礼儀、生命尊重、友情、規則の尊重などを主題にした授業を保護者地域に公開する。 ・作成した別葉を活用しながら、より充実した年間計画になるように随時修正を行う。 ・人権同和教育担当を中心に、読み聞かせボランティアや人権擁護委員の方々とも連携し、心に響く集会になるように創意工夫する。また、校内人権週間を設定し、集会や各学級の取り組みにおいて人権意識の高揚を図る。 ・ふれあいボランティアパスポートを有効に活用する。	心はぐくみ部	
教育活動	●いじめ問題への対応	・道徳や学級活動の充実 ・支持的風土づくりと子どもの心の内の表現活動	・いじめアンケートを実施し、実態把握を行う。 ・いじめの実態を共有し、全ての職員で対応できる体制を整える。 ・心のアンケートの実施による人権意識の陶冶とオープンマインドの意識作り	・保護者、児童へのいじめアンケートを実施し、実態把握を行うことで早期対応に努める。 ・いじめ防止や人権に関わる授業を年１回実施する。 ・ＱＵを実施し、学級経営や個別の支援に生かす。 ・「こころのアンケート」や「にこにこアンケート」を実施し、いじめなどの早期発見、早期対応に努める。	心はぐくみ部 たくましふれあい部	
教育活動	○特別支援教育	・特別支援教育の体制作り	・特別支援教育のあり方や校内環境整備（ユニバーサルデザイン）について全職員で共通理解をする。 ・研修会を年間に３回以上実施する。 ・実態に即した支援のあり方を探る。	・各学級の児童の実態を把握し、全職員で共通理解するとともに、担任、特別支援C0、特別支援教育支援員、SCでチームを作り対応する。 ・具体的な支援の仕方について個別の指導・支援計画を立て、計画をもとに実践する。	心はぐくみ部	
教育活動	●健康・体力つくり	・体力の向上 ・健康管理能力の育成 ・食育や歯磨き等の健康指導	・「外で元気に遊ぶ」自己評価80%以上 ・スポーツテストや生活実態調査を実施し、児童の実態を分析して指導に生かす。 ・児童の健康管理意識の啓発を行う。 ・全学級「食育」の授業の実施。 ・朝食摂取率９５％以上を目指す。 ・歯磨き90%以上でう歯罹患率を減少させる。	・縦割り活動を通して、縄跳びや外遊びを奨励する。 ・病気の予防等について学級指導を行いうがい手洗い換気等を励行させる。 ・消毒用アルコールや加湿器を学級に設置する。 ・保護者への啓発と児童への指導、学級指導や全校集会で健康指導を行う。 ・食育の計画に応じて、栄養教諭や養護教諭と連携しＩＣＴを利用した授業を行う。 ・朝食摂取率を確認するため、アンケートを実施し、実態をしらせることで朝食摂取の励行を図っていく。 ・学級での指導や保健だよりまた、学級懇談会などを通して児童・保護者の意識を高める。 ・歯磨きカレンダーに毎日記入させる。低学年にはブラッシング指導を行う。 ・６月に歯磨きタイムを設定し、全校一斉に歯磨きが実施できるよう時間を設定し、電子黒板の動画に合わせて実施する。 ・清潔検査を週一回行う。	たくましふれあい部	

【保護者・地域とのスクラム】
①保護者に情報を公開し学校教育への関心を高め、協力をいただく。
②地域の力を活用して学校運営を進める。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）	担当者
教育活動	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進 ・「西郷地区ふるさと再発見！」地域に根ざし、地域に開かれた学校づくり	・自らの夢や目標に向けて努力する気持ちがあると答える児童を育成する。（達成率８５％以上） ・「ふるさと学習」や「ボランティア活動」の体験活動を全学年で系統的に計画し実施する。 ・地域文化を学び発信する学習を全学年で取り入れる。	・各学年の総合的な学習の時間や特別活動の年間計画の中に位置づけ、年間を通して計画的に実践していく。 ・地域の専門家の協力を得て体験活動を設定し、地域の農業や産業、文化について理解を深めさせる。（尾崎人形、尾崎焼、野菜作り、料理、大蛇伝説など） ・地域とつながる地域学習プログラムを実施する。	教務	
学校運営	○開かれた学校づくり	・学校情報の発信 ・学校開放 ・地域人材活用	・学校便りなどを定期的に出し、ＨＰを毎週2回以上更新する。 ・授業参観参加率は保護者の８０％以上をめざす。 ・行事や授業参観の案内を地域にも回覧する。 ・各学年の授業にＶＴ・ＧＴを年２回以上活用する。	・ＨＰ、学校便り等による広報活動を行う。 ・学校便りや行事の案内を各地区の班を通じて回覧する。 ・ＶＴやＧＴの人材バンクを作成し、年間計画に位置づける。	教頭 教務	
学校運営	○危機管理	・危機管理体制の整備 ・学校管理下及び登下校時の安全確保 ・児童及び職員への安全対策 ・職員の信用失墜行為防止 ・食の安全について	・危機管理マニュアルの読み合わせを全職員でする。 ・避難訓練、交通・防犯教室を年間４回以上実施する。 ・一斉または集団下校の実施（毎日）、登校班集会開催（月１回）、防犯ブザー着用の徹底（95%以上） ・各種団体と連携して見守り隊総会を開催する。 ・交通事故・不審者被害０ ・職員の信用失墜行為０ ・給食の異物混入を防ぐ。	・安全指導計画や危機管理マニュアルの周知徹底を図る。 ・防犯・避難訓練や全校朝会での講話により、児童が身につけておくべき危機管理について意識を高める。 ・交通安全については、一斉または集団下校指導時に注意喚起を行う。 ・見守り隊、派出所・警察、ＰＴＡ、学校で協議し意見交換する場を設定し、情報交換し効果的な安全対策を連携して行う。 ・職員会議や連絡会等で服務規律について注意を喚起する。（通知文の読み合わせを行い意識化を図る。） ・栄養教諭との連携や検食の徹底、また担任による給食の目視による確認の徹底。	教頭 たくましふれあい部	
学校運営	◎業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等の効率化の推進 ・働きやすい職場づくり	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進する。 ・教職員の時間外勤務を、１か月あたり５０時間未満にする。 ・定時退勤推進日を徹底する。	・エクセルシートに業務記録を毎日つけることで自分の勤務状態を把握する。 ・１月ごとに職員の勤務状況の一覧表を提示し、各自の勤務状況について自己チェックする。 ・毎週金曜日を定時退勤日として徹底し遵守させる。	教頭	

◎は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目